

## 企業行動研究部会議事録（第 263 回）

日 時： 平成 30 年 7 月 9 日(月) 18:00-20:00

場 所： 中央大学駿河台記念館 3 階 350 号室

出席者： (18 名 上原、片方、勝田、河口、北川、木下、栗栖、西藤、佐久間、櫻井、佐藤、出口、永井、菱山、松尾、峰内、宮澤、銀山、敬称略)

### 1. 連絡事項：事務連絡（総会・研究発表大会について）

勝田部会長による、開会宣言に続き、先に開催された日本経営倫理学会総会並びに研究発表大会の概要が部会長より説明された。また詳細については、次回発行の会報を参照して頂きたいとの事務局からの補足が行われた。

併せて部会長より、今後のテーマ発表について、「部会員各位が発表テーマと時期（19 年 3 月まで）をできる限り早めに予定いただき、河口まで報告頂きたいとの要請が重ねておこなわれた。

### 2. テーマ 1. 科学技術者倫理と経営倫理の現状

～パラダイムシフトの時代に E&C として渾然一体～

と題し菱山部会員より発表があり意見交換が行われた。

<発表骨子>

#### 第一部 パラダイムシフト

1. 技術進歩・グローバリゼーション・環境悪化。 それらが加速する時代
2. 手から頭へ、頭から心へ：焦点は心
3. 要求される科学・技術・エンジニアリング・数学の知識と共感力
4. 社会セクターがパラダイムシフトに追いつかない
5. 「立ち止まって倫理的なことを考えるべき瞬間」

#### 第二部 渾然一体の E&C の事例

1. グーグルの今日的倫理課題・・・国防省のプロジェクト開発協力（軍事と AI）
2. アマゾンの今日的倫理課題・・・顔認識技術（米国自由人権協会等 20 の NPO からの批判等）
3. マイクロソフトの今日的倫理課題・・・移民親子隔離問題について CEO に抗議
4. 今後の推移は「AI に携わる人たちの倫理と目的意識にかかる」・・・
5. アップルの今日的倫理課題・・・再エネ資源への支援等

#### 追補 日本の経営者とパラダイムシフトへの対応

経団連指導者の人的な方より・・・

日本の経営者のデジタルコンペティティブ 22 位という現状

国際 AI 学会の日本人の参加動向等

以上

<意見交換>

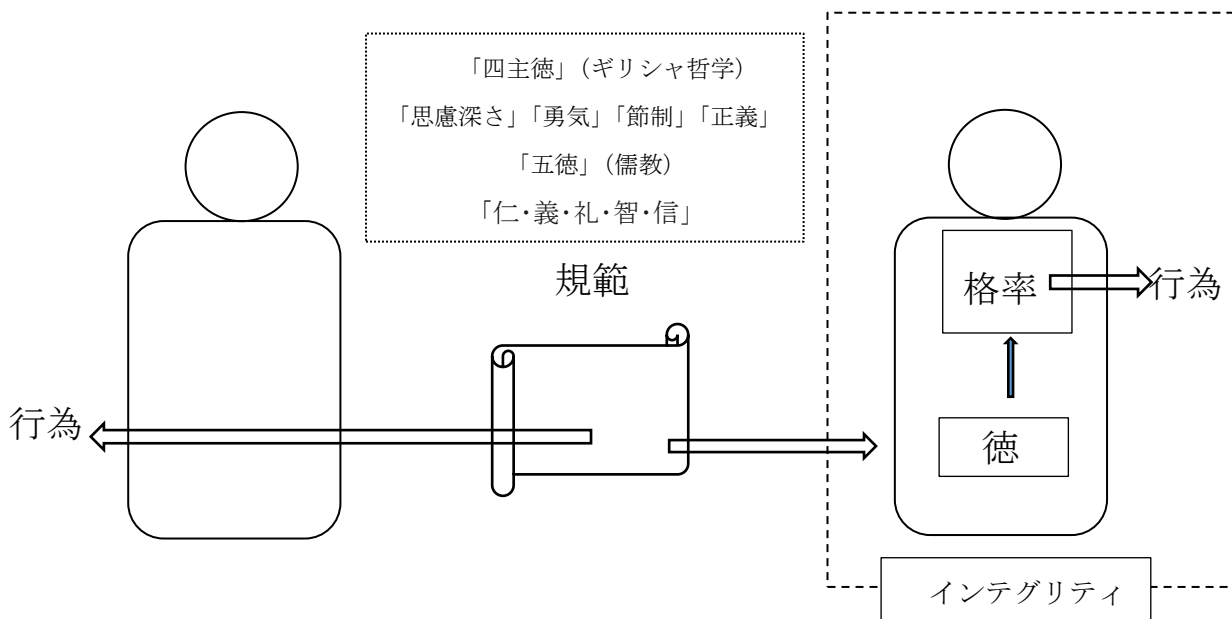
- ・ 1999 年の世界科学者会議でのブタペスト宣言・・・この折議長は東大教授の吉川氏・・・を想起した。
- ・ 日本の明治 150 年の遅れを感じた。西周の問題
- ・ 過去はともかくとして将来を早く見つめるべきか
- ・ 手から頭へ、頭から心へ戻ることが考えられる

- ・社員が人間的なものを守ろうとの流れが米国等で始まっている
- ・必ずしも米国だけが進んでいるとは言えないのではないか
- ・日本でも起こるといってほど単純ではないと感じている、米国を見習えと言うことはやや理解不能
- ・見習うべきと言っているわけではない。
- ・的確な纏めを有り難うございます。現在中国からアフリカのほぼすべての国に入っておりその視点が抜けているようにも思う。中国が汎用型人工知能の最初のものを作るのでは？との指摘がある。
- ・グローバル、インテグラルな変化で中国は主導権を取らないとは言えない。これだけ早く動く世界を見えている人が少ないのでは。
- ・ポスト民主主義、ポスト資本主義ということ議論すべき時に来ていると思う。
- ・社員が CEO に倫理的なことでもなんでもきちんとものが言えることは重要
- ・中国人の考えることの変化の中で最大の問題は、中国及び中国人の変化内容を早々に理解し対応を考えることが、今や重要と考える。
- ・講師に失礼かもしれないが、焦点が良く絞れていないと感じる。
- ・グーグル等の例がなんとなく過大に取り上げられているように感じる。
- ・300名の社員は万単位の全社員と比してみれば大した話ではないのでは。
- ・グーグルはEUで大きく非難されており流れとしては重要と考える。
- ・感想を申し述べたい。意見を含め大変勉強させて頂いた。AIと人間のモラルが一緒になってくると感じた。これまでAIと言うと単にコンピュータ業界が、云々でなくもっと幅広く考えるべきと感じた、お礼申し上げたい。

### 3. テーマ2. 「“Integrity” という言葉が最近ことさらにとり上げられているのはどうしてだろう。」 峰内部会員

1. 最近「インテグリティ」という言葉が新聞や雑誌に殊更にとり上げられている感じだがどうしてだろう。先般の当学会の研究発表大会でも次の様に二つの発表があったが偶然ではないだろう。
2. JSC（日本スポーツ振興協会）の「スポーツ・インテグリティ・ユニット」の設置などが紹介され、菱山会員から『目を覆う弛緩！思考停止！職業倫理の欠落！』とのメモが提出されている。またその後も文部省の局長という最高幹部が収賄の容疑で逮捕されている。
3. 何か不祥事が起こると官民ともに「コンプライアンス」と騒いでいるが、ルールを守ることが全てなのか？本来「コンプライアンス」とは何か既成のルールに従うことを求めるものであり、これだけでよいのか、何か抜けているのではないかということが「インテグリティ」がとり上げられる背景になっているのではないか。菱山会員のメモで取り上げられている問題も「インテグリティの欠如」ととらえることが可能ではないか、その意味で我々も「インテグリティ」について理解を深める必要があると考えられる。
4. しかし、「インテグリティ」という言葉は理解が難しい言葉で哲学者間でも議論が多い言葉だといわれているが「インテグリティ」は徳と密接に関連する言葉という意味では異論はないようだ。
5. 筆者はこれまで何度か「徳の倫理」について拙い発表をしてきたが、ここに来て「規範倫理学」だけでなく「インテグリティ」への関心の高まりで「コンプライアンス」と合わせて「人はどうあるべきか」を問う「徳の倫理学」が漸く注目されてきたのではないと思われる。しかし、いろいろな徳目の説明は洋の東西を問わず、難しい問題であるが、「インテグリティ」もまた説明が非常に難しい言葉であるといわれる。ちなみに『研究社英和大辞典』で「integrity」を引くと次の通

- り：①完全、無欠、そっくり元のままの状態 (preserve of territorial integrity:領土の保全) ②正直・高潔・誠実 (a man of integrity:人格の高潔な人、lack of commercial integrity:商業道德の欠如) 「integrity」は難しい言葉のようであるが、この際できるだけ理解しておく必要があると思う。
6. 英和辞典だけでは、どうもよく分からないので筆者が便利にしている『Stanford Encyclopedia of Philosophy(スタンフォード大学のオンライン哲学百科事典)』に詳細な説明がある。ここでは古今の学説が紹介され本になるほどの詳細な説明がある。取敢えず前文の部分を和訳し紹介しておく。
7. Stanford Encyclopedia of Philosophy(スタンフォード大学のオンライン哲学百科事典)  
略
8. “Integrity”とはこうことではなからうか？ (筆者なりの愚考を図にしてみたが) 峰内氏の作図



以上“Integrity”なるものについて考えてみたが ‘man of integrity’ とは完璧な人格を備えた人ではないかとの疑問がわく。この世に完璧な人間などいないので誰でも過ちは犯すという前提で考える他はない。不道徳なことをした、過ちを犯した場合に良心に基づき、正直・これを認め、責任をとり、反省して、二度と繰り返さないように必要な反省と行動を誠実にとれる人、またそのような行動をとれるように誠実に努力している人が ‘man of integrity’ ということではなからうか。

以上

#### <意見交換>

- ・インテグラルとインテグリティは違うのか
- ・すべてに均衡の取れたというような意味で調和がとれた状態をインテグリティと言ってる
- ・不完全な人間が集まって全体として均衡のとれる高度な状態を作ることが出来るのがインテグリティと言えるのではないか。
- ・少し前に上田あつお惇生氏の話聞く機会があった。真摯という言葉に訳したが、正しいということではなく、迷って使ったとのおなしを聞いた。
- ・インテグリティを社是としている会社は多くある。例えばGEでも高潔さ、嘘をつかないということだとするのが一般的だと聞くし、人事考課も行ってる。
- ・多元的で多様なものをまとめる時に本来使われている。
- ・小泉さんがブッシュ氏に会いに行ったときに、あなたは man of integrity だと言われた時には、

これを「ぶれないこと」と訳した話があったが、ぶれない人間とも言えるのではないか。

- ・トランプ氏は阿部さんにやはり you are a man of integrity. とされるのかしら。
- ・語源はインテジャー「整数」であり、実数「虚数とかではなく」的なものと言えるのではないか。
- ・毎年 GE では誓約書を書き、そこに如何に到達したかが評価となる。
- ・トータルとして整然と整っている形をインテグリティという。日本でのそれとはやはり異なると思う。日本の特殊性を斟酌すべきか。
- ・日本は体育というがこれはスポーツとは異なるのではないか。
- ・米国の NCAA にあたるものが日本にはなかった。

以下略

## 5. その他

次回以降のテーマ提出が幅広い参加者に依頼され閉会した。

月次報告一覧表を河口幹事に依頼が行われた。

(文責：河口)

議事録送付先(敬称略)：

[部会員]：安藤、井上(真)、井上、岩倉、上原、遠藤(淳)、遠藤(梨)、大泉、大島、岡田(佳)、片方、勝田、加藤、河口、川村、北川、木下、熊本、栗栖、桑山、小池、小松、小松崎、西藤、斉藤、佐久間、櫻井、佐藤、柴柳、瀬名、潜道、高橋、武谷、田村、出口、徳山、永井、那須、西村、野瀬、野田、比賀江、樋口、肥後、菱山、平塚、古谷、古山、前原、増岡、増澤、増淵、松尾、松本、丸山、水島、水野、峰内、宮川、宮澤、山口、山中、山本、横館、吉村、銀山(オブザーバ)

[学会本部]：梅津会長、水尾副会長、高橋前会長、内田事務長

※部会員登録には過不足や齟齬があるかもしれません。お気づきの点ご指摘ください。